

夕づる

むかし　むら　ひとり　びんぼう　わかもの　す
昔、ある村に一人の貧乏な若者が住んでいました。いつもまじめに
はたら　せいかつ　ぜんぜんらく　ひ
働いていましたが、生活は全然楽にはなりませんでした。ある日、いつ
おな　やま　き　と　い　いえ　かえ　とちゆう　のほら　ゆき
もとと同じように、山へ木を取りに行きました。家に帰る途中で、野原の雪
なか　たお　み　はね　くる
の中につるが倒れているのを見つけました。つるは、羽にけがをして、苦
な　わかもの　かわ　みず　あら
しそうに鳴いていました。若者は、けがをしたところを川の水で洗った
くすり　つ　たす　げんき　なんど
り、薬を付けたりして、助けてやりました。元気になったつるは、何度も
じぎ　そら　と　あ　わかもの　あたま　うえ
お辞儀をして、空へ飛び上がりました。そして、若者の頭の上をゆっくり
まわ　やま　む　と　い
回ってから、山の向こうへ飛んで行きました。

に　さんにち　ゆき　ふ　よる　わかもの　いえ　なか　しごと
それから二、三日たった、雪の降る夜、若者が家の中で仕事をしている
とき　と　おと　き
時、戸をたたく音が聞こえました。

よるおそ　だれ
「こんなに夜遅く、誰だろう。」

おも　わかもの　と　あ　み　ひとり　うつく　むすめ
そう思いながら、若者は戸を開けて見ました。そこには一人の美しい娘
た
が立っていました。

わたくし　しんるい　いえ　い　とちゆう　みち　まよ
「私は、親類の家へ行くところですが、途中で、道に迷ってしまいま
やす
した。すみませんが、ちょっと休ませてくださいますか。」

たいへん　なか　はい　やす　い　さむ
「それは大変でしたね。どうぞ中に入って、休んで行ってください。寒
ひ　き　あたた　た
かったでしょう。さあ、火のそばへ来て、暖かいものを食べてください。」

よる しんせつ わかもの むすめ と つぎ ひ あさはや
その夜、親切な若者はその娘を泊めてあげました。次の日、朝早くか
むすめ しょくじ ようい そうじ いっしょうけんめい いえ なか
ら娘は、食事の用意をしたり、掃除をしたりして、一生懸命に家の中
ようじ ひ むすめ わかもの いえ
の用事をしました。その日から娘はずっと若者の家にいるようになりまし
た。

ひ むすめ わかもの い
ある日、娘は若者に言いました。

わたくし とくべつ いと ぬの つく ぬの まち う
「私 はこれから特別の糸で布を作ります。その布ができれば、町へ売
い まち ひとびと めずら たか か
りに行ってください。町の人々は、珍しがつて、高く買ってくれるはずで
わたくし しごと とき へや なか み
す。でも私 は仕事をしている時は、部屋の中を見ないでください。」

むすめ へや はい なか しごと いっ
娘は、部屋に入ったまま、ずっと中で仕事をしていました。そして、一
しゅうかんご うつく ぬの も で き わかもの ぬの まち も
週間後に、美しい布を持って、出て来ました。若者は、その布を町へ持
い う ひとびと
って行って、売りました。人々は、

み き めずら ぬの ぬの
「見たことも聞いたこともない珍しい布だ。こういうすばらしい布な
たか か
ら、高くても買いたい。」

い たか ねだん か
と言って、高い値段で買いました。

わかもの かね も よろこ かね き むすめ
若者がお金をたくさん持って、喜んで帰って来たので、娘もうれしそ
かお ひ わかもの かね ほ むすめ
うな顔をしました。その日から若者は、お金がもっと欲しくなり、娘を
はたら むすめ かおいろ わる や
働かせるようになりました。娘は、だんだん顔色が悪くなり、痩せてき
わかもの よろこ かお み ぬの つく
ましたが、若者の喜ぶ顔が見たくて、布を作り続けました。

ある日、若者は娘の部屋の中を見たくまりました。

「どうして、あんな美しい布ができるのだろう。ちょっとだけなら、見てもかまわないだろう。」

とおもって、娘の働いている部屋へ行ってみました。若者は中を見て、び

っくりしてしまいました。部屋の中では、痩せたつるが自分の羽を一本一

本取り、それで布を作っていたのです。……………（後略）